

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

神戸大学は、「学理と実際の調和」を建学の理念とし、開放的で国際性に富む固有の文化の下、『真摯・自由・協同』の精神を發揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成することを使命としている。

さらに、人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命医学系諸分野における強みを社会に活かし、「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続けることを目指している。

とりわけ教育分野においては、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献するために、学部及び大学院で国際的に卓越した教育を提供することを基本理念とし、学生が個人的及び社会的目標の実現に向けて、その潜在能力を最大限に發揮できるよう、学生の自主性及び自立性を尊重し、個性と多様性を重視した教育を行うことを基本原理とする。これらの教育理念、教育原理に基づき、国際都市のもつ開放的な地域の特性を活かしながら、「人間性」、「創造性」、「国際性」及び「専門性」を備えた人材を育成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

我が国では、IT人材やAI人材の圧倒的な不足、並びに総合知の脆弱化は深刻な問題とされており、総合知に優れ新たな価値を生み出すことができるデジタル人材の育成が社会的に強く求められている。

システム情報学部では、これら社会的要請に応えるため、人間性、創造性、国際性に加え、幅広い知識及び学際的視点を有する人材、特に世界の現状や問題についての知識や理解力を持ち、システム情報学の各専門領域の知識や技術を応用し、俯瞰的に組み合わせることで、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創に貢献できる人材を育成する。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

【教員養成に対する目標】

本学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を發揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成することを目指す。

このような本学の基本的使命を踏まえ、本学は、教職課程の教育を通じて、国民から負託された教員養成を、次のような基本的目的を掲げて遂行する。

1. 社会の高度の変化に対応しうる次世代を育成する教科・領域の指導力の形成

変化が激しく不確実性の高い時代状況に対応し、自由な発想力で新たな価値を創造していくことができるような次世代を育成する各教科・領域の指導力を以下のように形成する。

1-1 各教科・領域の指導において、子どもの主体的な学びを組織し、探究力・創造性および協同的課題解決能力を育成する教育実践を展開することができる。

1-2 ICTや情報データを効果的に活用した学習活動を展開するとともに、子どもの情報活用能力を育成することができる。

1-3 総合的、教科・領域横断的な学習活動を組織し、多様化・複雑化する日本および国際

社会に柔軟かつ創造的に対応する能力を育成することができる。

2. 子ども・社会の多様性に包括的に対応できる教育力の形成

子どもの多様性、およびその背景となる社会の多様なニーズを個別的に深く理解し対応するとともに、それらに包括的に対応して学びと成長の場をつくりだしていく教育力を以下のように形成する。

- 2-1 多様な子どもの個性や人格を丁寧に理解・尊重したうえで、教育実践を構想・展開することができる。
- 2-2 個性の異なる子どもどうしが、寛容さを有しながら豊かな人間関係を構築できる学びと成長の場をつくりだしていくことができる。

3. 職能者としての自己マネジメント能力の形成

自らの教育実践とその省察を通じて自律的・主体的に学び続け成長していくとともに、組織の一員として協働し諸課題の発見と解決に取り組んでいく職能者としての自己マネジメント能力を以下のように形成する。

- 3-1 自らの教育実践とその不断の省察を通じて、生涯にわたり自律的・主体的に学び成長し続けていく教員としての自覚と意欲を有している。
- 3-2 学校組織の一員として、法令を順守し、同僚との豊かで生産的な協働によって諸課題の発見と解決に取り組んでいく教員の職務を理解している。

【教員養成に対する計画】

神戸大学の教職課程を円滑に運営するため、全学教務委員会のもとに、教職課程を置く学部から各々1名ずつ選出された委員からなる教職課程専門委員会を組織し、教職課程の実施に関する事項について審議・連絡・調整を行うとともに、目標を踏まえた教職課程を編成・実施することで、教員養成の質の向上を図る。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【教員養成に対する目標】

システム情報学部システム情報学科では、学部・大学院が一体化した College of System Informatics (CSI) のもと、世界の現状や問題についての知識や理解力を持ち、システム情報学の各専門領域の知識や技術を応用し、俯瞰的に組み合わせることで、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創に貢献できる総合知を有する人材の育成を目指している。

この目的を達成するために、以下の科目群からなるカリキュラムを構成し、教育を行う。

- ・システム情報学の各専門領域に共通して必要となる基礎的な知識と技術を身につけるための基礎系科目
- ・システム情報学の各専門領域の高度な知識と技術を身につけるための数理系科目・現象系科目・情報系科目
- ・システム情報学に関係する分野や話題についての幅広い知識と理解力を身につけるための教養系科目
- ・システム情報学を用いた共創・協働による課題の設定や解決に向けた総合知としての俯瞰力・創造力を涵養するため総合系科目

このカリキュラムによる教育を通じて、以下の知識・技術・能力を有する人材を育成する。

- ・システム情報学の各専門領域に共通して必要となる基礎的な知識と技術
- ・システム情報学の各専門領域の高度な知識と技術
- ・システム情報学に関係する分野や話題についての幅広い知識と理解力
- ・システム情報学を用いた共創・協働による課題の設定や解決に向けた総合知としての俯瞰力・創造力

本カリキュラムには、基礎系科目には、教職課程（数学）の「教科に関する専門的事項」となる科目、基礎系科目・数理系科目・現象系科目・情報系科目には、教職課程（情報）に必要とされる科目が配置されており、これらが関連づけられながら学ぶことができるようになっている。

システム情報学部システム情報学科では、このカリキュラム教育を通じて、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創に貢献できる総合知を有する中学・高校数学科教員ならびに高校情報科教員の育成をすることを目標とする。

【教員養成に対する計画】

システム情報学部教育推進委員会において、目標を踏まえた「教科及び教科の指導法に関する科目」の編成と見直しを適宜行うとともに、教職課程専門委員会の委員を選出し、教職課程全体における審議・連絡・調整に加わることで、教員養成の質の向上を継続的に図る。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

○中学校教諭一種免許状（数学）

本教職課程では、数学に関する幅広い知識を基に、実社会との関連性を踏まえた数学教育を提供できる能力を持つ中学校数学教員を育成することを目的とする。これにより、様々な分野の発展に主体的に対応できる生徒を育成し、社会全体の数学的リテラシーの向上と未来社会への適応能力の強化に寄与することに貢献する。さらに、指導法や教育に関する科目の履修を通じて、身に付けた数学に関する知識やスキルを生徒に教授する能力、教育の重要性や他者と協調して課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を身に付けた中学校数学教員を養成する。

○高等学校教諭一種免許状（数学）

本教職課程では、数学に関する幅広い知識を基に、実社会との関連性を踏まえた数学教育を提供できる能力を持つ高等学校数学教員を育成することを目的とする。これにより、様々な分野の発展に主体的に対応できる生徒を育成し、社会全体の数学的リテラシーの向上と未来社会への適応能力の強化に寄与することに貢献する。さらに、指導法や教育に関する科目の履修を通じて、身に付けた数学に関する知識やスキルを生徒に教授する能力、教育の重要性や他者と協調して課題解決に当たるためのコミュニケーション能力を身に付けた高等学校数学教員を養成する。

○高等学校教諭一種免許状（情報）

本教職課程では、システム情報学の各専門領域の知識や技術を応用し、俯瞰的に組み合わせることで、社会の様々な問題の解決や新しい価値の共創に貢献できる総合知を有する人材を基盤とし、教育指導法や情報工学や情報科学に関する基礎から先端の内容を含む専門科目の履修

を通じて、確かな基礎知識に立脚しつつ、技術革新の速い情報科学分野の動向をキャッチアップできる情報科高校教員を育成することを目的とする。これにより、社会課題の解決に情報技術を応用できる力を生徒に身につけさせるとともに、社会全体の未来社会への適応能力の強化に寄与することに貢献する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教職課程専門委員会
目的：	教職課程の実施に関する事項について審議・連絡・調整を行う。
責任者：	教職課程専門委員会委員長
構成員(役職・人数)：	・委員長 1名 ・教職課程を置く学部から選出した教員 計6名 ・大学教育推進機構長が必要と認めた者
運営方法：	<開催頻度> 年に5～6回開催 <議 事> 教育実習、教職に関する科目の授業計画、その他、教職課程の実施に関する検討課題及び自己点検・評価に関する事項について審議 全学教務委員会委員長が指名する教職課程専門委員会委員長のもと 全学的な意思決定等と各学部間の連絡調整を図る

②

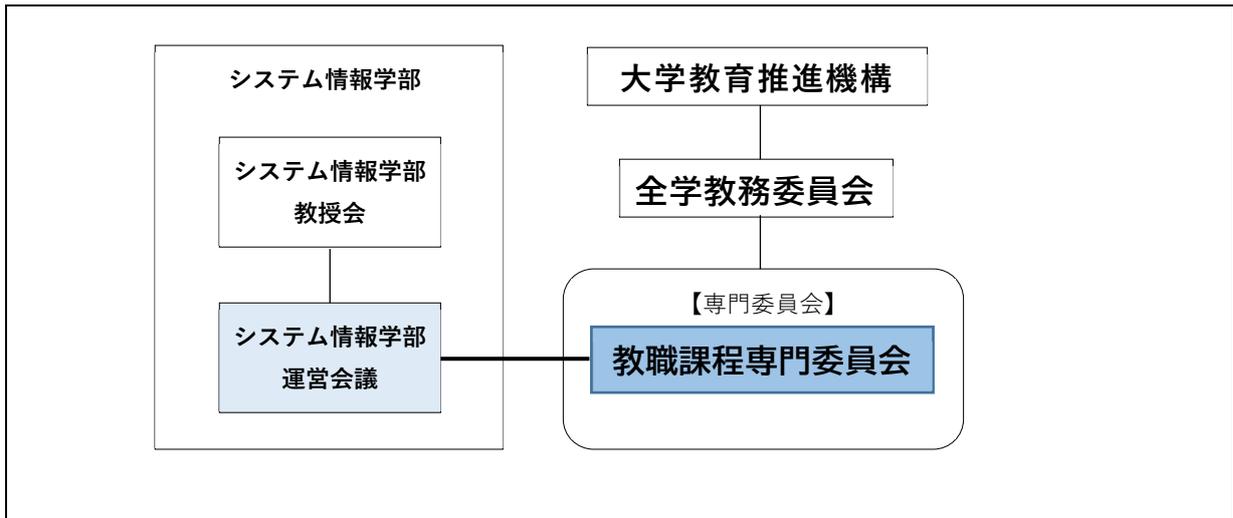
組織名称：	システム情報学部教授会
目的：	教育研究の審議機関として、学部長が司る教育研究に関する事項について審議する。
責任者：	システム情報学部長
構成員(役職・人数)：	システム情報学部長 教授(特命教授を除く)及び教授会が必要と認める准教授、講師、助教及び助手(特命教員を除く)
運営方法：	毎月1回開催、委員の過半数の出席により以下の事項を審議する。 (1) 学生の入学及び卒業に関する事項 (2) 学位の授与に関する事項 (3) 教育課程の編成に関する事項 また、委員の3分の2以上の出席により以下の事項を審議する。 (1) 規則等の制定または改廃に関する事項

③

組織名称：	システム情報学部教育推進委員会
目的：	システム情報学部内の教務に関する専門的事項を審議する。
責任者：	教育推進委員長
構成員(役職・人数)：	教育推進委員長、入試担当、カリキュラム担当
運営方法：	毎月1回開催、教育課程の編成に関する事項を審議する。

様式第7号イ

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- ・教育実習の事前事後指導に兵庫県教育委員会及び県立高校に講師派遣を依頼し、教員志望学生にとってより実践的な学びの機会を提供している。
- ・年に1～2回開催される神戸市教育委員会による「神戸市立学校学生スクールサポーター制度連絡協議会」に参加し、意見交換を行っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	神戸市立学校学生スクールサポーター制度
連携先との調整方法：	<ul style="list-style-type: none"> ・本学からスクールサポーターを希望する学生を神戸市教育委員会に推薦し、教育委員会において神戸市管轄下の各学校に配置。 ・「神戸市立学校学生スクールサポーター制度連絡協議会」に大学の担当者又は担当教員が参加し、意見交換を行い、連絡調整を図っている。
具体的な内容：	神戸市教育委員会と協定を締結し、希望する本学の学生が神戸市立学校において学校の活動の補助を行う。

III. 教職指導の状況

新入学生に対して行う入学時のガイダンスにおいて、システム情報学部における教職課程の履修方法や取得できる教員免許について説明する。また、履修期間中は学生の指導教員および事務職員において随時履修相談に応じ、問題が発生した場合等、必要に応じて、指導教員と教職課程専門委員会委員が連携して学生との面談を行い、適宜指導する。

全学的には、教育実習においては3年次の希望者に対し、説明会を開催する。実習本年度には事前指導において実習の目的や実習時の心構えを再度確認させ、本実習後の事後指導においては実習全体の総括を行う。

様式第7号ウ

＜システム情報学部システム情報学科＞（認定課程：中一種免（数学））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認する。中学校（公立学校）の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならないのかを理解し、自分で計画を立てて実践する。大学で学ぶ理工系の学問に必要な数学、データサイエンス、情報系の基礎を身につける。
	後期	教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、中学校数学の教員職が自分に向いているか否かを確認する。大学で学ぶ理工系の学問に必要な代数学、解析学、コンピュータシステムの基礎を身につける。高度情報通信社会における数学教育の活用について理解する。
2年次	前期	数学科の指導に必要な学習指導要領の理解・評価方法・学習指導方法などの基礎的知識を身につける。幾何学、関数解析、複素関数論の基礎を学び、事象を数理的に考察する力を身につける。
	後期	学習指導案の作成や模擬授業を通じて、単元の要点や学習指導の方法等、数学科の指導で必要な学習指導の技術を習得する。数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につける。
3年次	前期	介護等体験指導を通して、多様な人への対応力の必要性を理解し、心構えを培う。教科外活動に関する理解・基礎的知識を習得し、実践する。学校現場で重要視される数学的活動に対して、十分なスキルを身につける。
	後期	介護等体験を通して、多様な人への対応を実践し、教師として必要なことは何かを再発見する。数学教育において、具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適応した指導の工夫をする。
4年次	前期	教育実習事前指導を通して、中学校数学の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備をする。礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働する。また、教育実習で指導されたことや気付いたことはしっかりと記録し、教職実践演習に活かす。教員採用候補者選考試験に向けて、自分で弱点としている箇所を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨む。これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材の準備ができるようになる。
	後期	これまでの教職課程で学んできたことを教職実践演習を通して振り返り、教師として不足している己の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践できるようになる。これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する方法やそれらを活用して考えたり判断する方法を生徒に指導できるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

＜システム情報学部システム情報学科＞（認定課程：中一種免（数学））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論(中・高)	線形代数		情報基礎	代数・幾何演習1
		教育行政学(中・高)	基礎解析		データサイエンス基礎学	解析演習1
			離散数学		数理情報英語A	
			確率・統計・情報		数理情報英語B	
			アルゴリズムとデータ構造		健康・スポーツ科学実習基礎	
					健康・スポーツ科学講義A	
	後期	教育原理	代数概論		数理情報英語C	代数・幾何演習2
		心の発達と教育1(学習・言語心理学1)	応用解析		数理情報英語D	解析演習2
		心の発達と教育2(教育・学校心理学1)	データ解析		健康・スポーツ科学実習1	
			計算論		健康・スポーツ科学実習2	
		コンピュータシステム2				
2年次	前期	教育史	幾何概論		日本国憲法1	
		教育経営学(中・高)	常微分方程式論		日本国憲法2	
		中等カリキュラム論	複素関数論			
		中等道徳教育論				
		中等学習指導・ICT活用論				
		数学科教育論A				
		数学科教育論C				
	後期	青年心理学	数理論理学			
		中等特別支援教育論	ソフトウェア工学1			
		総合的な学習の指導法(中・高)				
		中等学校教育相談				
		数学科教育論B				
		数学科教育論D				
3年次	前期	中等特別活動指導論	偏微分方程式			
		中等生徒指導論	ソフトウェア工学2			
	後期					

4年次	前期	中等教育事前・事後指導				
		中学校教育実地研究A				
		中学校教育実地研究B				
	後期	教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<システム情報学部システム情報学科>(認定課程:高一種免(数学))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認する。高等学校(公立学校)の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならぬのかを理解し、自分で計画を立てて実践する。大学で学ぶ理工系の学問に必要な数学、データサイエンス、情報系の基礎を身につける。
	後期	教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、高等学校数学の教員職が自分に向いているか否かを確認する。大学で学ぶ理工系の学問に必要な代数学、解析学、コンピュータシステムの基礎を身につける。高度情報通信社会における数学教育の活用について理解する。
2年次	前期	数学科の指導に必要な学習指導要領の理解・評価方法・学習指導方法などの基礎的知識を身につける。幾何学、関数解析、複素関数論の基礎を学び、事象を数理的に考察する力を身につける。
	後期	学習指導案の作成や模擬授業を通じて、単元の要点や学習指導の方法等、数学科の指導に必要な学習指導の技術を習得する。数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につける。
3年次	前期	教科外活動に関する理解・基礎的知識を習得し、実践する。学校現場で重要視される数学的活動に対して、十分なスキルを身につける。
	後期	数学教育において、具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適応した指導の工夫をする。
4年次	前期	教育実習事前指導を通して、高等学校数学の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備をする。礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働する。また、教育実習で指導されたことや気付いたことはしっかりと記録し、教職実践演習に活かす。教員採用候補者選考試験に向けて、自分で弱点としている箇所を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨む。これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材の準備ができるようになる。
	後期	これまでの教職課程で学んできたことを教職実践演習を通して振り返り、教師として不足している自分の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践できるようになる。これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する方法やそれらを活用して考えたり判断する方法を生徒に指導できるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

＜システム情報学部システム情報学科＞（認定課程：高一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論（中・高）	線形代数		情報基礎	代数・幾何演習1
		教育行政学（中・高）	基礎解析		データサイエンス基礎学	解析演習1
			離散数学		数理情報英語A	
			確率・統計・情報		数理情報英語B	
			アルゴリズムとデータ構造		健康・スポーツ科学実習基礎	
					健康・スポーツ科学講義A	
	後期	教育原理	代数概論		数理情報英語C	代数・幾何演習2
		心の発達と教育1（学習・言語心理学1）	応用解析		数理情報英語D	解析演習2
		心の発達と教育2（教育・学校心理学1）	データ解析		健康・スポーツ科学実習1	
			計算論		健康・スポーツ科学実習2	
		コンピュータシステム2				
2年次	前期	教育史	幾何概論		日本国憲法1	
		教育経営学（中・高）	常微分方程式論		日本国憲法2	
		中等カリキュラム論	複素関数論			
		中等学習指導・ICT活用論				
		数学科教育論A				
		数学科教育論C				
	後期	青年心理学	数理論理学			
		中等特別支援教育論	ソフトウェア工学1			
		総合的な学習の指導法（中・高）				
		中等学校教育相談				
		数学科教育論B				
		数学科教育論D				
3年次	前期	中等特別活動指導論	偏微分方程式			
		中等生徒指導論	ソフトウェア工学2			
	後期					

4年次	前期	中等教育事前・事後指導				
		高等学校教育実地研究				
	後期	教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<システム情報学部システム情報学科> (認定課程:高一種免(情報))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職課程とは何かを理解し、かつ、教員の仕事・職務内容についての理解を深める。 また教育行政・制度を構想・運用する力を養う。 さらに、学ぶ存在としての人や学びの仕組みやそれを支える環境についての理解を深める。 情報科の概要と社会においてどのような役割が期待されているかや情報倫理について学ぶ。 大学で学ぶ理工系の学問に必要な数学、データサイエンス、アルゴリズム、コンピュータシステムについての基礎を習得する。
	後期	「教育」という営みの成り立ちを理解するための基礎的作業として、教育の目的・意義・理念・課題などについて学ぶ。 大学で学ぶ理工系の学問に必要な代数学や解析学の発展的内容、データ解析、応用解析、人工知能など、コンピュータシステムを活用した情報処理の基礎を身につける。
2年次	前期	教育史を学んだうえで、これまで受けてきた教育と重ね合わせ、今日および今後の教育の在り方について理解を深める。 また、教育経営の基本的な原理や構造についての理解を深め、「組織としての学校」で働く高校教諭として必要な資質・能力を修得する。 情報通信ネットワークに関する基礎知識、情報伝送技術や言語・画像・音声などの多様なデータに対する人工知能応用技術について学ぶ。
	後期	青年期のアイデンティティ形成について学ぶとともに、総合的な学習の時間の具体的な指導法を修得する。 情報技術についての一定の知識に基づいた上で、社会課題における情報技術応用の実際について学ぶ。また、ソフトウェア開発の設計・開発・運用の方法論やマルチメディア表現やマルチメディア技術などヒューマンコンピュータインタラクション技術について学ぶ。
3年次	前期	幅広い教養を身につけるとともに、情報科教育における方法論を学び、実践する。 並列コンピュータや量子計算技術など先端情報処理技術について学ぶ。
	後期	社会環境および社会ニーズを基盤として、特定の領域ごとに設定される演習科目(C3)におけるグループワークを通じて、技術の潮流も考慮しながら、価値創造に資する研究課題の設定に取り組むことで、情報学に基づく俯瞰力を涵養する。
4年次	前期	教育実習事前指導を通して、高等学校情報の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備をする。 高等学校教育実地研究の一環としての教育実習を通じて、教師の役割を実践から総合的に学び、授業力、子供・同僚との関わりなどの教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。 研究課題を技術的に解決するための卒業論文に取り組む過程において、情報科に関する高度な専門知識と研究開発に必要なとされるスキルを獲得する。
	後期	教職実践演習を通じて、教科指導についての知見を深めると同時に、教職についての理解を確認し、教職への適性について考察するとともに、主体的に教員として必要な資質能力を統合・形成する。 卒業研究に取り組むことで、課題解決に情報技術を適用するための方法論や情報技術に立脚した創造性を養うとともに、研究成果を取りまとめ、伝える力を獲得する。

様式第7号ウ（教諭）

＜システム情報学部システム情報学科＞（認定課程：高一種免（情報））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論(中・高)	アルゴリズムとデータ構造		情報基礎	
		教育行政学(中・高)	コンピュータシステム1		データサイエンス基礎学	
			システム情報学入門		数理情報英語A	
					数理情報英語B	
					健康・スポーツ科学実習基礎	
					健康・スポーツ科学講義A	
	後期	教育原理	計算論		数理情報英語C	
		心の発達と教育1(学習・言語心理学1)	システムモデル		数理情報英語D	
		心の発達と教育2(教育・学校心理学1)	数値解析1		健康・スポーツ科学実習1	
			コンピュータシステム2		健康・スポーツ科学実習2	
		人工知能1				
2年次	前期	教育史	信号処理1		日本国憲法1	
		教育経営学(中・高)	コンピュータシステム3		日本国憲法2	
		中等カリキュラム論	情報通信工学			
		中等学習指導・ICT活用論	人工知能2			
	後期	青年心理学	ソフトウェア工学1			情報セキュリティ
		中等特別支援教育論	HCI			電子回路
		総合的な学習の指導法(中・高)				
		中等学校教育相談				
3年次	前期	中等特別活動指導論	並列コンピューティング			量子デバイス
		中等生徒指導論	ソフトウェア工学2			
		情報科教育論A				
		情報科教育論B				
	後期					
4年次	前期	中等教育事前・事後指導				
		高等学校教育実地研究				
	後期	教職実践演習(中・高)				